

NEWS CLIP & AV MATERIAL



● ニュースクリップ&映像教材

■ 山形国際ドキュメンタリー映画祭開催される

2年に1回、世界の優れたドキュメンタリー映画を紹介する本映画祭が、平成21年10月8～15日に山形市内で開催された。映画祭第1回目より行われている国際・コンペティションには、110の国・地域より1,141作品の中から、「包囲：デモクラシーとネオリベラリズムの罠」（カナダ）が大賞に選ばれた。映画祭についてのレポートを、本誌16ページに掲載。

NEWS CLIP

文部科学省情報

■ 文部科学省予算の動向

《平成22年度文部科学省概算要求の概要（平成21年10月）について》

10月15日、平成22年度文部科学省概算要求の概要（平成21年10月）が公表された。前年度に対して4,745億円増となっている。

要求に関する基本方針は、「知識社会において最も重要な社会全体の資産である知的財産（ソフト）と人材（ヒューマン）への効果的な投資に厳選し、一方で、既存事業について事業数の削減など徹底的な見直しを実施」としている。

視聴覚教育・情報教育関連では「学校ICT活用推進事業」が7億円（今年度より3億円増）となっており、「学校教育の情報化を進めるにあたり、ソフト・ヒューマンに焦点を当て、教員のICT活用指導力の養成、デジタル教材等を活用した教育に関する調査研究、ICTを活用した特別支援教育への支援などの施策を一体的に推進」としている。

《平成21年度文部科学省補正予算の見直しについて》

10月16日、文部科学省より平成21年度補正予

算の見直しについて公表された。総額では補正予算額1,317,366百万円に対して、執行停止額338,728百万円、25.7%の削減となっている。

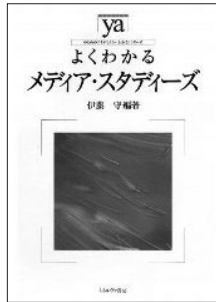
地上デジタルテレビ対応、学校のICT環境整備事業（公立）では、【デジタルTV・アンテナ工事】54,870→40,735（14,135）、【電子黒板】9,843→8,035（1,808）、【PC・校内LAN】141,965→73,263（68,702）、地上デジタルテレビ対応、学校のICT環境整備事業（私立）は、【デジタルTV・アンテナ工事】2,008→663（1,345）となっている（補正予算額→執行停止後予算額（執行停止額）、単位：百万円）。

公立小中学校への電子黒板の導入については、6月に行われた1次募集を除いて執行停止されることとなった。なお、学校ICT環境整備事業の中で予定されていた「電子黒板研究モデル校調査」については執行される見通しである。

AV情報

■ 第8回「子どもシネマスクールin豊島」参加者募集

▶ブックレビュー



「よくわかる メディア・スタディーズ」(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)

伊藤守編著
ミネルヴァ書房発行
2009年3月刊 242頁
2,625円(税込)

本書は、メディア・スタディーズの第一線の研究者52名によって編まれた、まことに贅沢なテキストである。研究対象の広がりや、研究方法の革新と多様性を示しながら、読者自らが問題を見出し、その解決にむけた実践への一步を踏み出す力を与えてくれる、好ましい挑発の書である。

第1章「メディア・スタディーズの輪郭」(伊藤守)によって、「メディアをめぐる知」という問題設定がまず明確にされる。そのことが次章からの多様なトピック—文字、ラジオ、テレビ、映画は言うに及ばず、岩波文庫、遺児写真、2チャンネル、ディアスポラ、メディア・スケープなどなど—の奔放と

も思えるような展開と飛躍を可能としている。読者の多くは現在のメディア研究というものが、これほど豊饒なテーマをたたえており、また、これほど人間の心と体に寄り添ったものとして発展を遂げていることを知って驚くのではないか。

このような各章の多様多彩さが百家争鳴とはならず、全体が入門書としての統一的な筆致を保ち、読者への学習の動機づけと原典への誘導を丁寧に行っていることに感心する。巻末の「理論・研究者紹介」も配慮がゆきとどいている。メディア研究とその教育への展開の現在をみごとに結節してみせた、まことに時宜にかなった出版といえよう。

もし、注意しなければならぬとすれば、本書がこれほど広範な領域をあまりに見事に整理してみせたために、本書の構成をもってメディア・スタディーズの全体系であるかのような錯覚を抱きかねないことかもしれない。それは編者の意図にも反すると思う。

若い研究者には、本書の刺激から発して、本書にもまだ出てこない面白いトピックが、まだほかにないかと狙うくらいの気概が欲しい。

(東京情報大学教授 伊藤敏朗)

NPO法人日本映画映像文化振興センターでは、子どもたちが映画づくりを体験することで、映画製作について学び、相互理解、協調性、社会的マナーを身につけることを目的に、標記イベントを開催する。
〈日程〉平成21年12月6日・13日(日)演技指導同20日(日)配役決定後に稽古 同23日(祝)開校式・オリエンテーション及び製作準備 同25日(金)～29日(火)映画製作 2010年日時未定 仕上げ、編集・アフレコ・ミキシング見学 2月28日(日)完成披露試写会の予定。
〈対象〉小学校4～6年、25名。定員になり次第締め切り。なお撮影は、豊島区内を中心に近隣各所。

〈参加費〉5,000円(演技・演出・撮影・照明・録音等講師指導料、教材費、保険料他)

〈申込方法〉官製はがきまたはファックスに、1. シネマスクール申し込み 2. 郵便番号・住所 3. 名前(フリガナ) 4. 性別 5. 学校名 6. 学年 7. 電話・FAX番号(FAX番号は必ずご記入ください) 8. 保護者氏名・印 を記入の上、〈問い合わせ先〉まで申し込む。

〈問い合わせ先〉NPO法人日本映画映像文化振興センター 〒163-8691東京都新宿郵便局私書箱164号 TEL03-3200-2118 FAX042-344-3399

■「ICT活用実践」発表を募集

(財)コンピュータ教育開発センターでは、来春の「平成21年度『教育の情報化』推進フォーラム」における分科会にて、学校のICT活用授業の発表事例を募集している。

〈分科会テーマ〉「新学習指導要領に対応した“ICT活用実践”」

〈内容〉小・中・高等学校、中等教育・特別支援学校を対象に、実践事例または計画されているもの。ホームページ(http://www.cec.or.jp/e2e/symp/21sympo/ict_form.xls)より申請書をダウンロードし、記入の上、郵送とメールの両方で応募のこと。送付先は、〒108-0072東京都港区白金1-27-6白金高輪ステーションビル3F(財)コンピュータ教育開発センターまで。

〈募集期間〉平成21年11月9日(月)。

採択発表は、11月20日(金)。ホームページおよびメールにて通知。

〈発表会日時・会場〉平成22年3月12日(金)13:00～17:00 東京国際交流館プラザ平成(東京都江東区青海2-79)。なお、旅費・宿泊費など、発表者1名分については支給される。

〈問い合わせ先〉(財)コンピュータ教育開発センター推進フォーラム担当 TEL 03-5423-5914

▶ブックレビュー



「今日から始めるプリンター&プロジェクター活用授業」

中川一史・寺島浩介編著
学習研究社発行
2008年3月刊 129頁
1,575円（税込）

文部科学省のスクール・ニューディール構想によって、過去最大といえる規模のICT機器が学校に導入される。特に注目すべきなのは、「学校に数台」という導入でなく、デジタルテレビを始め各教室に機器が届くことだ。つまり、一部の得意な教員だけが活用するのでなく、全ての教員が活用できる状況になる。その時に、「大きく映す」「コピーする」だけで効果のある簡単な活用例から、高度な活用例まで86もの実践が記載されている本書が役に立つ。

まず、パラッとめくって目に入ってくるのがカラーでわかりやすいレイアウトでまとめられた「実践編」。低・中・高学年別に色分けされたインデックスがつ

いており、自分の学年をすぐに見つけ出すことができる。各実践には学年、教科、単元名、使用機器等必要な基礎情報だけでなく、内容がすぐに理解できる2行のタイトル、「ポイント」「ICT活用の場面」「ICT効果をUPする一工夫」、作品や授業風景の写真やイラストなどさっと読めば、すぐに理解できる構成になっている。記載されている実践内容は、子どもが手書きしたものや作品などとICT機器をうまく組み合わせることによって、手間や時間を省いたり、みんなで共有したりする内容になっている。教室で日常的に行われているアナログな活動が、デジタルを活用することでより効果的になる実践ばかりである。

後半の「理論編」では、ICT活用の効果と機器を意識せずに使うポイントがわかりやすく書かれている必読の「PART1」。実践者の生の声が聞ける「PART2」。ICT活用の効果が具体的に書かれている「PART3」。さらに「解説編」では、使用する機器の特徴がイラスト、写真を交えて丁寧に紹介されている。

本書を読むことで、どのような機器がどのような場面で活用できるのかが誰にでもわかる。教室の本棚にぜひ入れておきたい一冊である。

（千葉県船橋市教育委員会 秋元大輔）

Mail h21seika@cec.or.jp

■ 第18回「上月情報教育研究助成事業」募集

（財）上月スポーツ・教育財団では、初等中等教育における情報教育に関する研究、教材の開発、ならびに学習指導における実践に対して助成を行う。
〈対象研究領域〉 ○情報教育のねらいである情報活用能力（情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度）の育成を目標にした授業実践○子どもたちの情報活用能力の育成と教科の目標を併せて達成しようとする授業実践○情報教育に役立つシステムやカリキュラム、コンテンツの開発○教員のICT活用指導力を高める研修の実践と能力向上に関する評価
〈応募資格〉 初等中等教育に携わる教員や指導主事などによるグループ・学校単位。
〈募集期間〉 平成21年11月1日（日）～11月30日（月）（必着）
〈提出書類〉 申請書・推薦書へ必要事項記入の上、〒107-0061東京都港区北青山1-2-7 （財）上月スポーツ・教育財団まで、郵送のこと。
〈助成金〉 助成件数15～20件程度。1件あたり、30～150万円。
〈審査方法〉 書類審査

〈結果発表〉 平成22年3月

※ただし、成果報告など研究期間終了後、研究論文、ならびに決算報告書を提出のこと。

〈問い合わせ先〉 （財）上月スポーツ・教育財団
TEL 03-5414-2811

■ 2009年国際放送機器展「Inter BEE 2009」

（社）電子情報技術産業協会は、音と映像と通信のプロフェッショナル展を開催する。
〈日時〉 平成21年11月18日（水）～11月20日（金）11月18日（水）・19日（木）10:00～17:30、20日（金）17:00まで。
〈会場〉 幕張メッセ（千葉県美浜区中瀬2-1）
〈内容〉 国内外のトップレベルの映像・放送関連機器、音響関連機器、照明機器、周辺アプリケーションやソリューションの展示。入場無料（事前登録制）。
〈問い合わせ先〉 有限責任中間法人日本エレクトロニクショー協会 TEL 03-5402-7601
Mail contact@inter-bee.com

■ 「第29回地方の時代映画祭2009」

吹田市・関西大学・日本放送協会・日本民間放送連盟の共同主催により、標記映像祭が下記の通

り、開催される。

〈日時〉平成21年11月21日（土）～27日（金）

時間は、各日による。

〈会場〉関西大学千里山キャンパス（大阪府吹田市山手町3-3-35）

〈内容〉地域の人々の営みを記録したドキュメンタリーなど映像祭参加作品の上映、ワークショップ、シンポジウムなど。

〈参加費〉無料。先着順により、会場に入場できない場合もある。

〈問い合わせ先〉「地方の時代」映像祭実行委員会事務局 TEL 06-6363-3874

研究会情報

■「関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会長野大会／第48回長野県高等学校視聴覚教育研究大会」

関東甲信越地方放送教育研究協議会・関東甲信越学校視聴覚教育連盟ほか主催により、「広い視野をもち、新しい文化を築く 心豊かな人間の育成を目指して—教育メディアの効果的活用を通して」をテーマに、標記大会が開催される。

〈日時〉平成21年11月13日（金）受付開始8:45～16:10

〈会場〉長野県伊那市竜南保育園、伊那市生涯学習センターいなっせ

〈内容〉公開保育、公開授業、番組研究、記念講演「坂の上の雲」を目指して（講師：西村与志木氏NHK放送総局「坂の上の雲」プロジェクトエグゼクティブ・プロデューサー）等

〈問い合わせ先〉長野県高等学校視聴覚教育研究会事務局 長野県松本工業高等学校内

TEL 0263-25-1184 Mail nag-ave@avis.ne.jp

■「情報教育コンファレンス」

（財）学習ソフトウェア情報研究センターでは、標記コンファレンスを開催する。

〈日時〉平成21年11月30日（月）13:30～15:50

〈会場〉アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区九段北4-2-25）

〈内容〉講演「教育の情報化に関する施策について」齋藤晴加氏（文部科学省生涯学習政策局参事官（学習情報政策担当））、「教育の情報化の今日的課題と将来の展望」清水康敬氏（東京工業大学監事・名誉教授）

〈参加費〉無料

〈申し込み〉ファックスもしくは、メールにて、平成21年11月20日（金）までに、申し込む。定員は50名。定員になり次第締め切り。

〈問い合わせ先〉（財）学習ソフトウェア情報研究センター TEL 03-5919-3401

FAX 03-5919-3402 MAIL gjk@gakujoken.or.jp

コンクール情報

■「第21回丹波篠山ビデオ大賞」ビデオ作品募集

丹波篠山ビデオ大賞実行委員会・篠山市・篠山市教育委員会主催の標記コンクールでは、「キラリ生きる」をテーマに、作品募集を行っている。〈部門別テーマ〉○グランプリ部門（各8分以内）①「いっしょに生きる」②「明日に挑戦！」③「私が見つけた丹波篠山」○デビュー部門（3分以内）テーマは自由。篠山市民限定の部門。

〈応募条件〉アマチュアであること。DV・DVD・VHSで応募のこと。他のコンクールにて入選以上の賞を受けていない作品。詳細は、<http://edu.city.Sasayama.hyogo.jp/video/v-taishou/index.html>を参照のこと。

〈賞〉ビデオ大賞（賞金20万円）、兵庫県知事賞（賞金3万円）、篠山市長賞（賞金3万円）他。

〈締め切り〉平成21年11月30日（月）必着

〈応募・問い合わせ〉丹波篠山ビデオ大賞実行委員会事務局〒669-2206兵庫県篠山市西吹88-1篠山市視聴覚ライブラリー内

TEL 079-590-1301

短信

■文部科学省生涯学習政策局参事官付の異動

○大臣官房総務課国会連絡調整室調査第二係長田中勉氏→情報リテラシー係長○メディア係千原理氏→科学技術・学術政策局原子力安全課放射線規制室総括係長（後任：原子力安全・保安院原子力発電検査課＝吉田彩乃氏）○メディア係研修生（福島大学）鈴木嵩千氏→高等教育局国立大学法人支援課法規係（後任：高等教育局国立大学法人支援課法規係研修生（九州大学）＝堀之内豊氏）○情報教育係研修生（山梨県）永田典弘氏→初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室産業教育係（後任：生涯学習政策局政策課教育改革推進室改革企画係研修生（長野県箕輪町）＝土岐俊氏）

AV MATERIAL

文部科学省選定作品

- 9月選定 〔紙〕紙しばい／〔ビ〕ビデオ／〔D〕DVD
- 「人権啓発 日常の人権Ⅰ—気づきから行動へ—」
- 「人権啓発 日常の人権Ⅱ—気づきから行動へ—」
- ともに〔B〕23分〈青年・成人、地域社会生活（人権）〉
- 東映（株）
- 「運転免許返上！ あなたは運転をいつやめますか？」〔D〕17分〈成人、国民生活（高齢社会）〉（有）
- 鹿児島文化企画



- 72回 21日「Obligado—ありがとう—を伝えよう」
- （新潟放送）



- 73回 28日「大草原の学び舎—モンゴル歌姫の夢—」
- （東北放送）

放送番組・web配信

中学生日記

- （土）19:15～19:45／NHK教育
- 翌週（土）12:30～13:00／再放送 NHK教育
- 中部7県は翌週（日）11:00～11:30／再放送 NHK総合
- ※都合により番組内容が変更となる場合があります。

- 7日「“仮面親友” やってきます」
- 14日「少年は虹の空をかける」
- （平成20年6月14日放送分）
- ※再放送枠（総合11月22日（日）は、「金とく」73分サイズのため休止）
- 21日「未来観測（仮）」
- 28日「ぶっちゃけトーク『いじめ 誰に相談しますか？』」

発見！人間力

※放送曜日・時間は地域によって異なります。
 〈放送についての問い合わせ〉
 (財)民間放送教育協会 TEL03-6406-2171

- 70回 7日「能登のわらしべ長者～竹からカブトムシ！アワビ？」
- （北陸放送）
- 71回 14日「未来への伝言～奥会津聞き書きで見つけた宝物～」
- （福島放送）

エル・ネット

各機関で行われているさまざまな取組みをエル・ネットでも紹介する。

今月の主な新着コンテンツは下記の通り (<http://www.elnet.go.jp>)。〈1ch 文部科学省から〉

「平成21年度全国キャリア教育・進路指導担当者等研究協議会」

平成21年5月21日（木）～22日（金）、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、国立教育政策研究所主催の平成21年度全国キャリア教育・進路指導担当者等研究協議会が開催された。都道府県・政令指定都市教育委員会や小・中・高等学校の進路指導担当者等を対象に、キャリア教育・進路指導の在り方についての講演等が行われた。

- 講演「今後求められるキャリア教育の実践—保護者との連携・協力を中心に—」
- 概要説明「新しい教育課程におけるキャリア教育推進施策について」
- シンポジウム「日本のキャリア教育のこれまでとこれから—新しい教育課程における更なる推進のために—」など。